

「ペットの防災対策及び所有者明示」及び「文化・生涯学習振興」 に関するアンケート実施報告

この度は、e-モニターアンケートにご協力をいただき、誠にありがとうございました。

食品安全課と文化振興課が実施しました「ペットの防災対策及び所有者明示」及び「文化・生涯学習振興」に関するアンケートについて、746名の方からご回答をいただきました。

アンケート結果をとりまとめましたので、ご報告します。

(1) アンケート実施期間

令和3年12月14日（火）から令和3年12月28日（火）

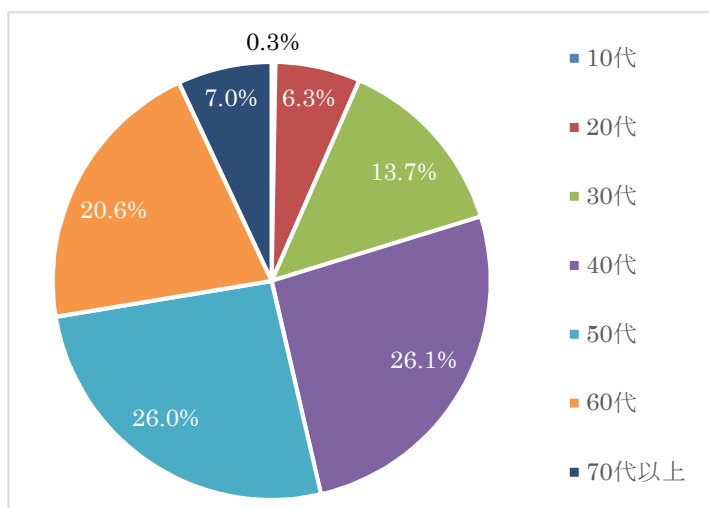
(2) アンケート回収状況

対象者数 1180名
回答者数 746名
回答率 63%

(3) 回答者の属性

年代別

| | 10代 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | 70代以上 |
|----|------|-----|-----|-----|-----|-----|-------|
| 人数 | 2 | 47 | 102 | 195 | 194 | 154 | 52 |
| 割合 | 0.3% | 6% | 14% | 26% | 26% | 21% | 7% |



地域別

| | 北勢 | 中勢 | 伊勢志摩 | 伊賀 | 東紀州 |
|----|-----|-----|------|----|-----|
| 人数 | 368 | 210 | 87 | 62 | 19 |
| 割合 | 49% | 28% | 12% | 8% | 3% |

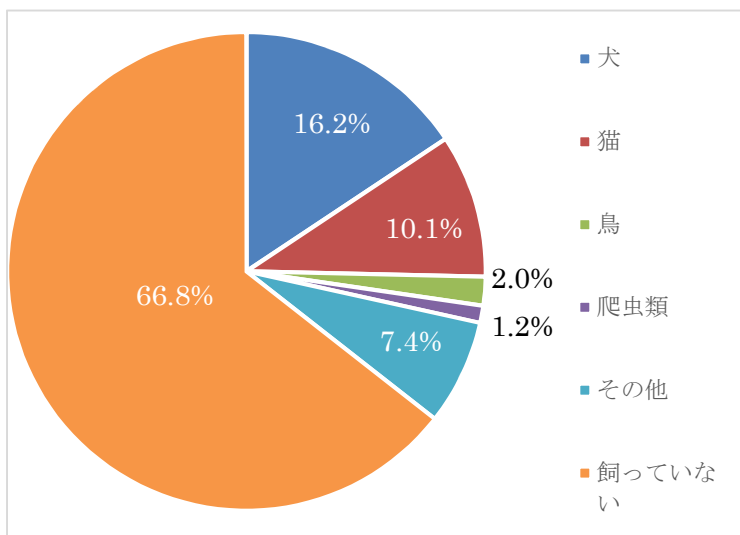
※北勢：四日市市、桑名市、鈴鹿市、亀山市、いなべ市、桑名郡、員弁郡、三重郡
中勢：津市、松阪市、多気郡 伊勢志摩：伊勢市、鳥羽市、志摩市、度会郡
伊賀：名張市、伊賀市 東紀州：尾鷲市、熊野市、北牟婁郡、南牟婁郡

(4) アンケート集計結果 (※グラフの単位はすべて%)

Q1 ペットについて

あなたはどんなペットを飼っていますか。(複数回答を含みます)

| | 犬 | 猫 | 鳥 | 爬虫類 | その他 | 飼っていない |
|----|-----|-----|----|-----|-----|--------|
| 人数 | 121 | 75 | 15 | 9 | 55 | 498 |
| 割合 | 16% | 10% | 2% | 1% | 7% | 66% |

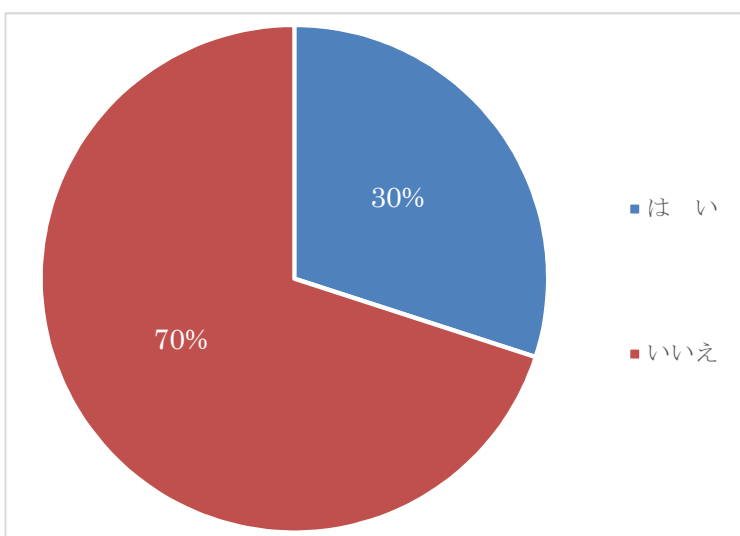


複数回答を含むことから、動物を飼われている方は、約30%の方でした。飼われている動物の44%が犬、27%が猫でした。その他としては、金魚やメダカなどの魚類、カエルやイモリなどの両生類を飼われている方もいました。

Q2 ペットの防災対策について 1

ペットの防災対策をしていますか。

| | はい | いいえ |
|----|-----|-----|
| 人数 | 74 | 174 |
| 割合 | 30% | 70% |



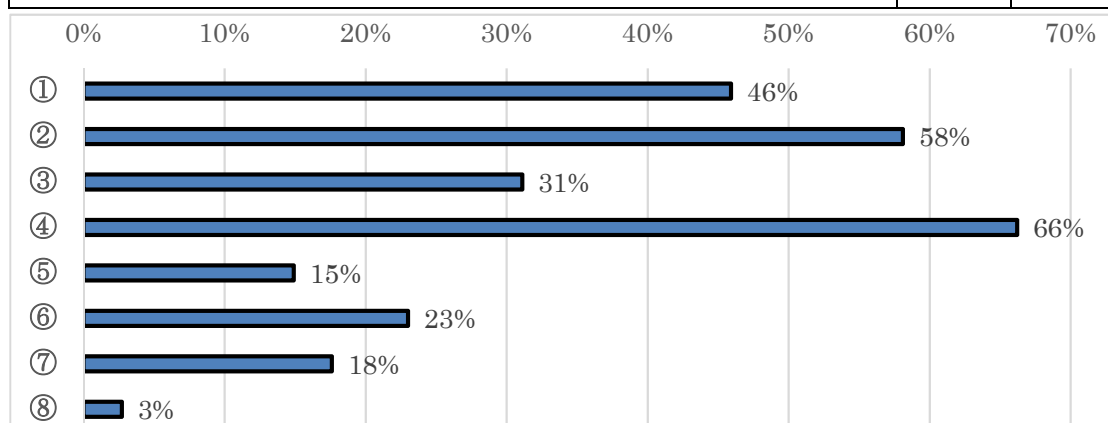
Q1で動物を飼われている方の内、30%の方がペットの防災対策を行っていることがわかりました。

Q3 ペットの防災対策について 2

Q2で「はい」と回答された方にお聞きします。(74人)

どんな防災対策をしていますか。(複数回答を含みます)

| | | |
|--|----|-----|
| 人やペットがケガをしないよう、家具の固定や転倒防止対策をしている (グラフ項目①) | 34 | 46% |
| 避難所での生活に備え、基本的なしつけと各種ワクチンやノミダニ駆除 をしている(グラフ項目②) | 43 | 58% |
| 万一、ペットとはぐれてしまったときに備え、マイクロチップやそれ以 外の方法(迷子札)などで所有者明示をしている(グラフ項目③) | 23 | 31% |
| 避難用のキャリーバックやフード・水などを備蓄している (グラフ項目④) | 49 | 66% |
| ペットを連れての避難に備え、ハザードマップや避難場所までのルート の確認をしている(グラフ項目⑤) | 11 | 15% |
| 普段から、ペットの避難方法や集合場所を、家族で話し合っている (グラフ項目⑥) | 17 | 23% |
| 親戚宅や友人宅など、ペットの一時的な避難場所を確保している (グラフ項目⑦) | 13 | 18% |
| その他(グラフ項目⑧) | 2 | 3% |
| 合計 | 74 | |



Q2で「防災対策をしている」と回答した74人の方にお答えいただきました。ペットの防災対策としては、「避難用のキャリーバックやフード・水などを備蓄している」がもっとも多く66%・49人でした。次いで、「避難所での生活に備え、基本的なしつけと各種ワクチンやノミダニ駆除をしている」が多く、避難所での生活を見据えた対策が取られていることがわかりました。

その他として、避難所にペットが受け入れられないことを想定し、ペット用のテントを用意されている飼い主の方もいました。

平時からの準備がとても重要であり、定期的なフードや水の点検に加え、しつけや予防接種など、避難所での生活を考慮した準備も必要と言えます。

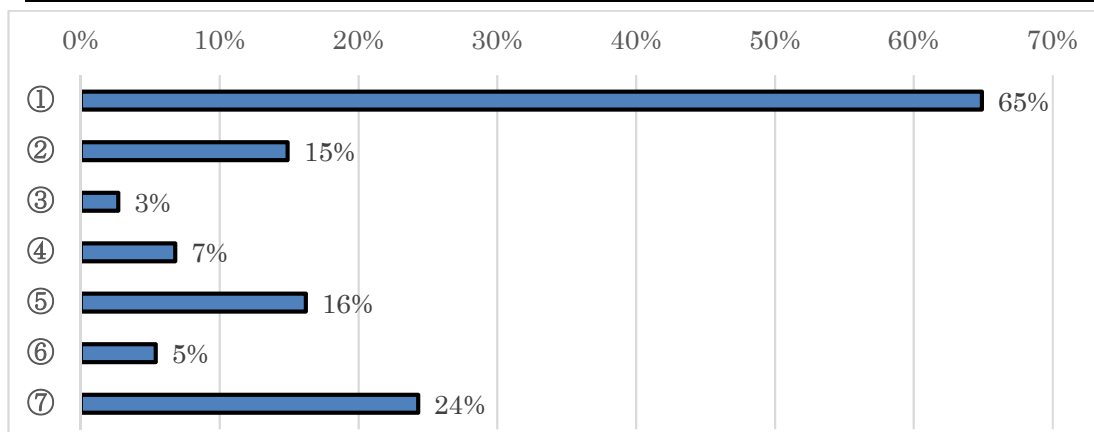
三重県動物愛護推進センター「あすまいる」のホームページでは、ペットとの同行避難に必要な備蓄や防災用品を紹介していますので、是非ご覧ください。

Q 4 ペットの防災対策について 3

Q 2で「はい」と回答された方にお聞きします。(74人)

ペットのための防災対策をしようと思ったきっかけを教えてください。(複数回答を含みます)

| | | |
|---|----|-----|
| テレビのニュースや新聞、雑誌等の記事を読み (グラフ項目①) | 48 | 65% |
| ペットのための防災対策を実施している知人等の話を聞いて (グラフ項目②) | 11 | 15% |
| 被災経験を持つ知人等の体験談を聞いて (グラフ項目③) | 2 | 3% |
| 防災関連のセミナーに参加して (グラフ項目④) | 5 | 7% |
| SNSやブログ等を見て (グラフ項目⑤) | 12 | 16% |
| 「あすまいる」で災害に関する展示を見たり、職員の話をして 聞いたりして (グラフ項目⑥) | 4 | 5% |
| その他 (グラフ項目⑦) | 18 | 24% |



Q 2で「防災対策をしている」と回答した74人の方にお答えいただきました。ペットの防災対策に取り組まれるきっかけとしては、「テレビのニュースや新聞、雑誌等の記事を読み」がもっとも多く65%・48人でした。

少ないながらも三重県動物愛護推進センター「あすまいる」のペットの防災グッズに関する展示や動物愛護教室など、職員のお話をきっかけにペットの防災対策に取り組まれた方もみえて、大変うれしく思います。

これらの結果を踏まえ、ペットの防災対策を身近に感じていただくため、各種メディアを活用して県民の皆さんの目に留まる啓発方法を検討します。

Q5 ペットの所有者明示について

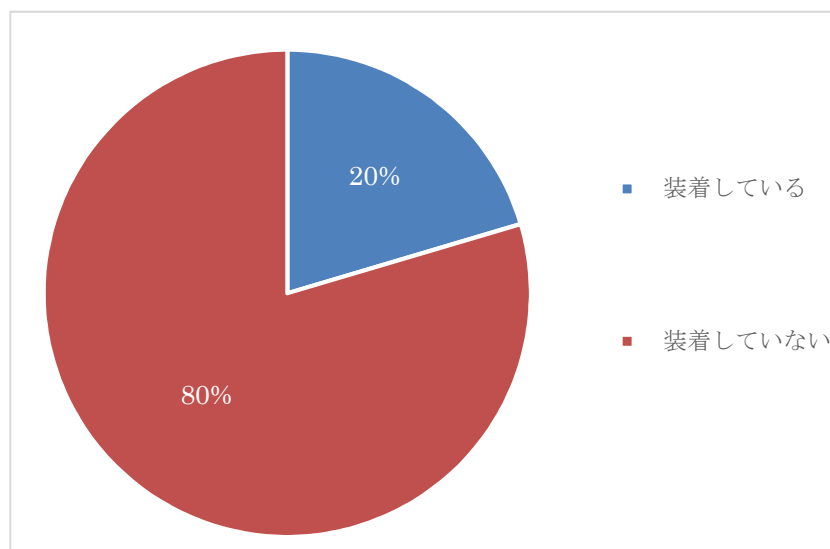
Q1でペットを飼われているとお答えいただきました。(248人)

飼われているペットにマイクロチップを装着していますか。

| | 装着している | 装着していない |
|----|--------|---------|
| 人数 | 40 | 208 |
| 割合 | 16% | 84% |

ペットにマイクロチップを装着している40の方は、犬猫を飼われていることから、犬猫のみを対象に集計した結果は以下のとおりでした。

| | 装着している | 装着していない |
|----|--------|---------|
| 人数 | 40 | 156 |
| 割合 | 20% | 80% |



Q1でペットを飼われていると回答した248人にお答えいただきました。

飼われているペットにマイクロチップを装着している方は16%・40人でした。また、これらの飼い主の方は、犬猫を飼われていることから、犬猫を対象として結果を精査すると、犬猫を飼う飼い主の20%がマイクロチップを装着していることがわかりました。

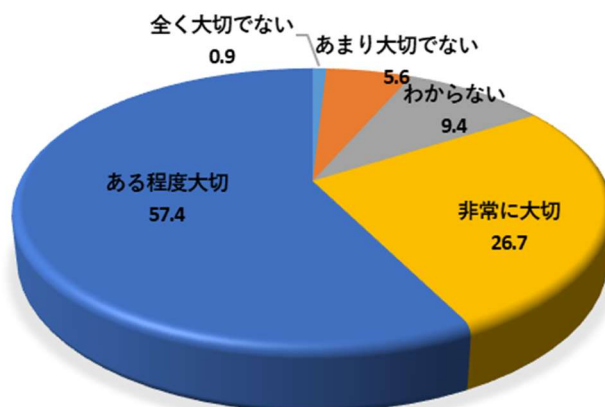
災害時の対策としてだけでなく、ふとしたことで、屋外や敷地の外へ出てしまうこともあるかと思えます。無事に飼い主の元へ戻れるようにマイクロチップを装着しましょう。

令和4年6月1日に「改正動物愛護管理法」が施行され、販売される犬や猫へのマイクロチップの装着・登録が義務付けられます。登録された犬や猫を購入した飼い主は「変更登録」をする必要があります。

また、譲り受けた犬や猫にもできる限りマイクロチップを装着し、「登録」を忘れずに行いましょう。

Q 6 文化体験・鑑賞等に対する認識について

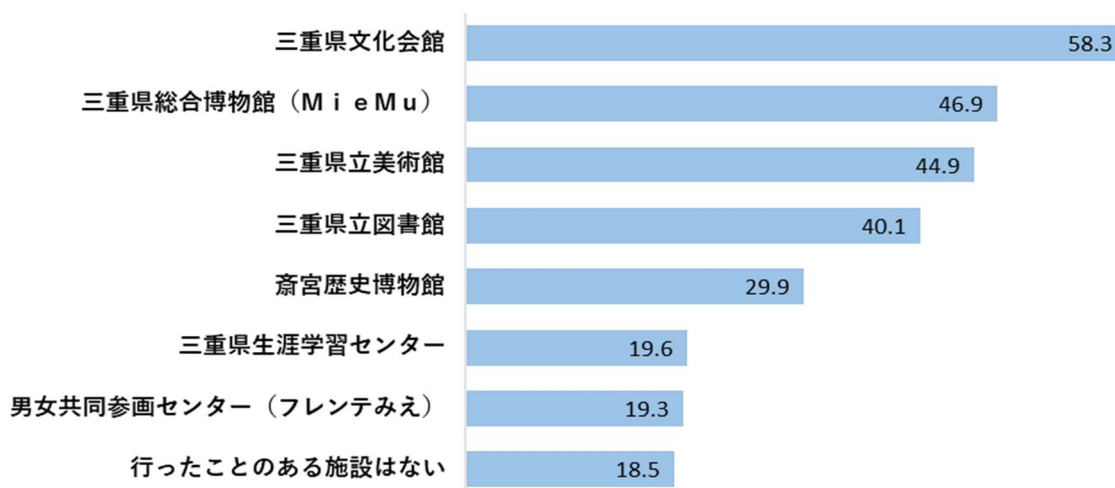
日常生活の中で、優れた文化芸術を体験・鑑賞したり、自ら文化芸術を実践することをどのように思いますか？



「非常に大切」「ある程度大切」とした回答が全体の8割を超える割合となり、日常生活の中で、文化芸術を体験・鑑賞、実践することの重要性の認識が高いことがうかがえました。

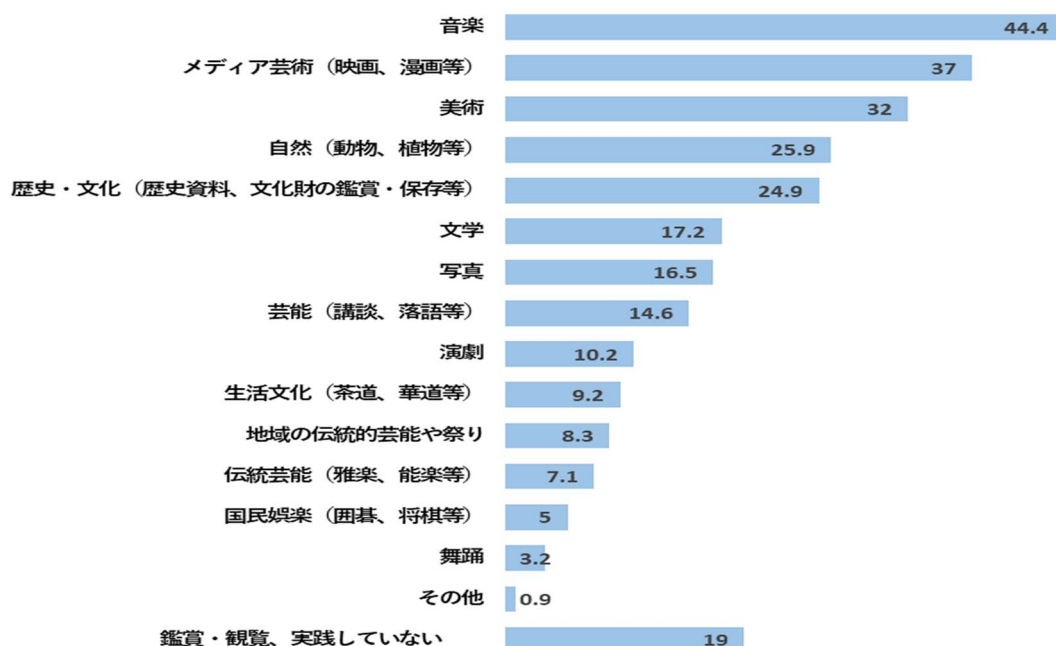
Q 7 これまで行ったことのある県立文化施設について

あなたは、県立文化施設である次の施設を訪れたことがありますか。（施設外で実施される出前講座等への参加を含みます。）訪れたことがあるものをすべて選んでください。



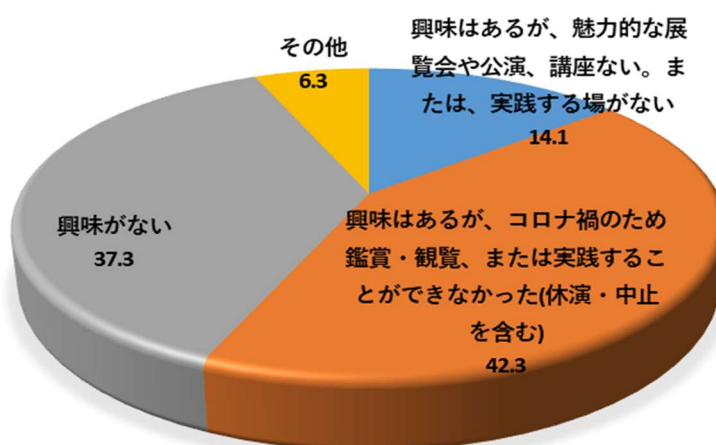
県立文化施設に行ったことがあるとの回答は、約8割となりました。個別にみると、「三重県文化会館」(58.3%)が他の県立文化施設と比べて特に多くなりました。これは、同館では他館と比較するとコンサートや演劇をはじめとして、さまざまな公演やイベントが行われているためではないかと思われます。

Q 8 鑑賞・観覧もしくは自ら実践した文化芸術のジャンルについて
 あなたが最近、鑑賞・観覧したり、自ら実践した文化芸術のジャンルは何ですか。



「音楽」(44.4%)、「メディア芸術」(37%)、美術(32%)の順となりました。
 一方で、「鑑賞・観覧していない」も約2割ありました。

Q 9 鑑賞・観覧もしくは自ら実践した文化芸術のジャンルについて
 Q 8で「鑑賞・観覧、実践していない」と回答された方に質問します。その理由は何ですか？



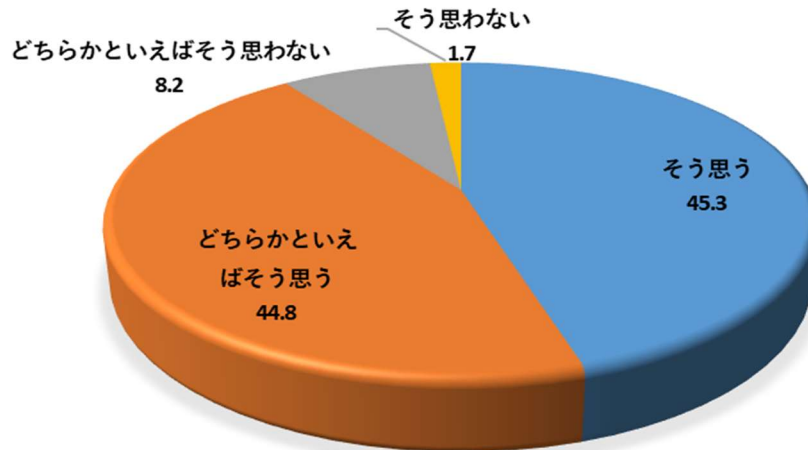
Q 8で「鑑賞・観覧、実践していない」と回答された方にその理由を聞いたところ、「興味はあるがコロナ禍のため鑑賞・観覧等できなかった」(42.3%)との回答が最も多く、新型コロナウイルス感染症の影響が表れた結果となりました。

なお、その他の主な内容は次のとおりでした。

- ・忙しくて時間が取れない
- ・年齢等により活動が難しくなった
- ・わざわざ見に行こうと思わない

Q10 三重県に対する誇りや愛着について

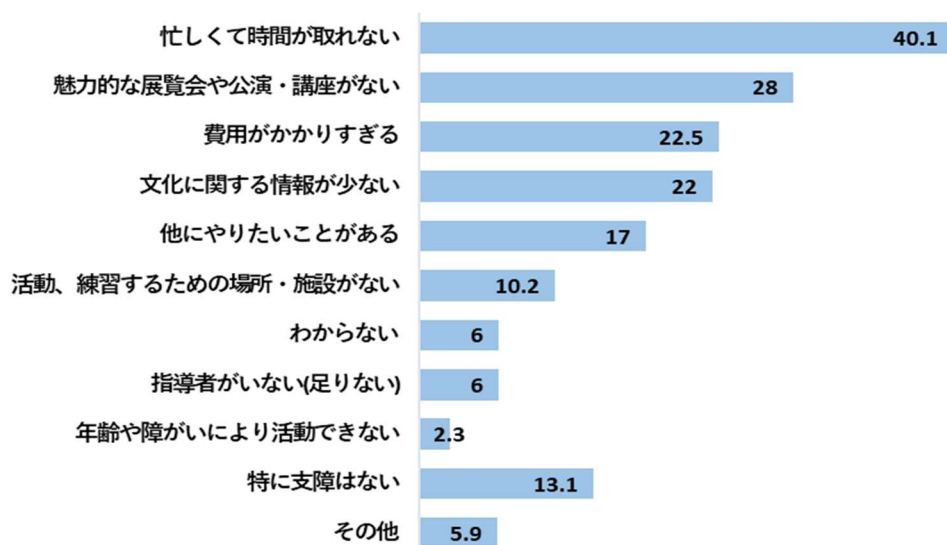
あなたは、三重県にある全国的あるいは国際的に誇ることができる歴史的資産等（※）について、愛着を感じるのでしょうか。



「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の回答が90.1%あり、昨年度(89.7%)から微増し、9割を超える方が三重県に誇りや愛着を感じているという回答になりました。

Q11 文化芸術活動への支障について

文化芸術を鑑賞・観覧、もしくは実践するうえで支障となっていることは何ですか。



「忙しくて時間が取れない」(40.1%)が最も多く、次に「魅力的な展覧会や公演・講座がない」(28%)、「費用がかかりすぎる」(22.5%)の順となりました。

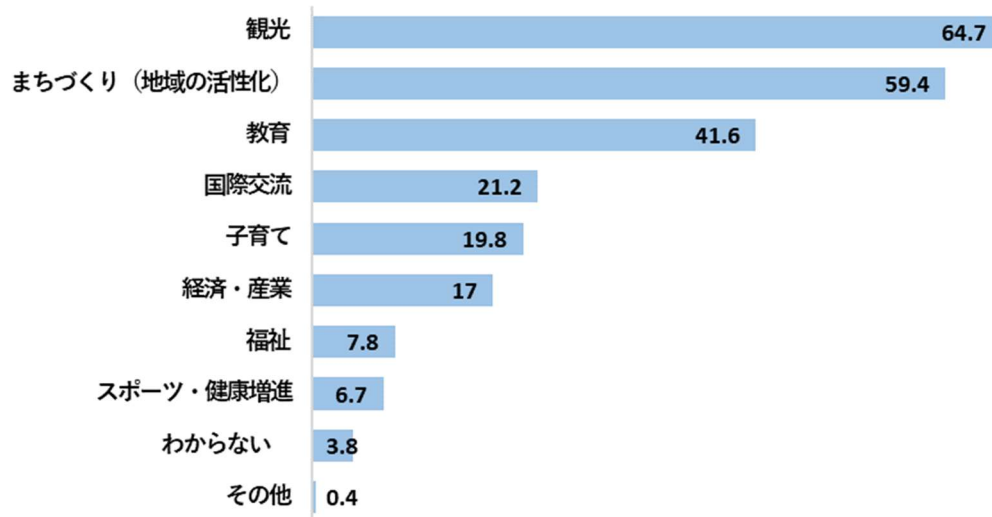
た。

なお、「その他」の主な内容は次のとおりでした。

- ・交通の便が悪い
- ・コロナ禍の世相
- ・興味がわからない

Q 1 2 文化芸術を活かしたら良いと思う分野について

あなたは、文化芸術をどのような分野に活かしたら良いと思いますか。あてはまるものを3つまで選んでください。（複数選択可能）

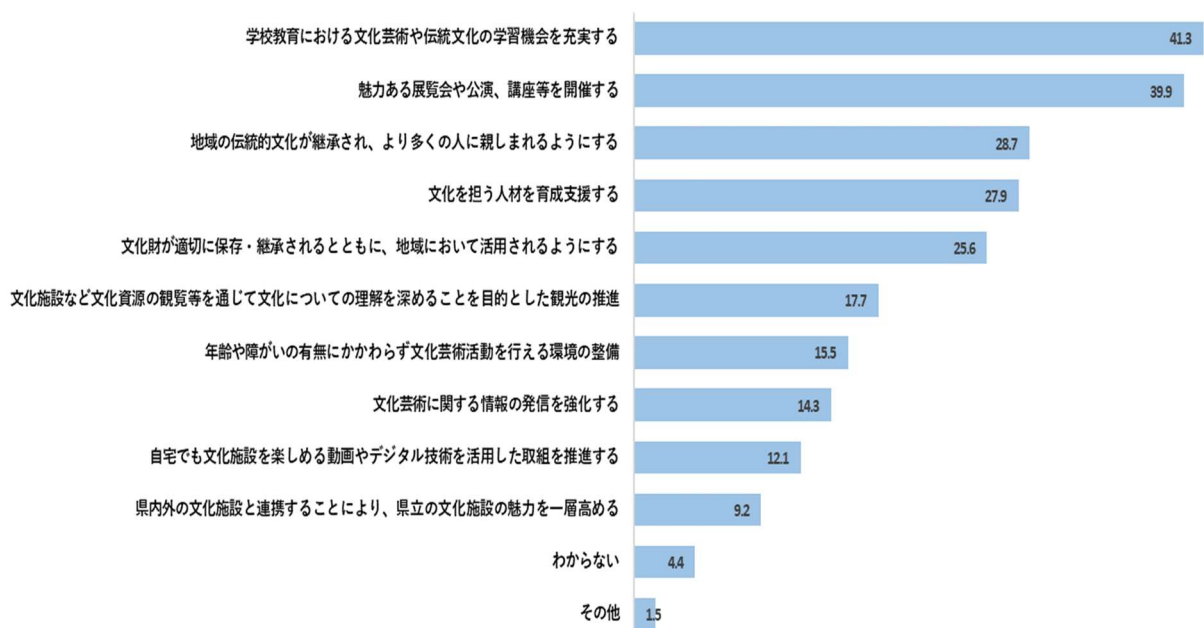


「観光」(64.7%)が最も多く、次に「まちづくり(地域の活性化)」(59.4%)、「教育」(41.6%)の順となりました。なお、「その他」の主な内容は次のとおりでした。

- ・心豊かな国民性の醸成
- ・精神の健康

Q 1 3 今後県が力を入れるべき文化施策について

あなたは、県は今後どのような文化振興施策に力を入れるべきだと思いますか。もっともあてはまるものを3つまで選んでください。



「学校教育における文化芸術や伝統文化の学習機会を充実する」(41.3%)が最も多く、次に「魅力ある展覧会や公演、講座等を開催する」(39.9%)の順となりました。なお、「その他」の主な内容は次のとおりでした。

- ・文化施設の周辺にカフェやお土産店などを開設し、鑑賞後も楽しめる施設とする
- ・地域資料の保存
- ・交通アクセスの改善